

令和6年度
地域提案型交通安全支援事業運営支援業務
事業報告書

令和7年3月

内閣府政策統括官（共生・共助担当）

目 次

I. 令和6年度 地域提案型交通安全支援事業 実施概要

1. 事業の目的	1
2. 事業の概要	1
3. 実施地区概要	2

II. 実施地区の報告

1. 青森県 十和田市	3
2. 山口県	19

資料	34
1. 事前打合せ資料	35
2. 実施マニュアル (例)	42
3. アンケート調査票	
(青森県 十和田市)	55
(山口県)	60

I. 令和6年度 地域提案型交通安全支援事業 実施概要

1. 事業の目的

本事業は、内閣府が地方公共団体の提案を受け、当該地域の実情を踏まえた上で、当該地域において必要な交通安全に資する事業を実施することにより、地域における自主的な交通安全活動を推進することを目的とする。

2. 事業の概要

都道府県、市町村、所轄警察署、教育委員会、小・中・高等学校、PTA、高齢者団体及び交通関係団体等との連携・協力の下、実施地区ごとに交通ボランティア等を中心とする実行委員会を設置する。

実行委員会は、参加者の理解・共感を促し、地域の交通実態に合った参加・体験・実践型のプログラムを決定し、これを実施する。

プログラムの実施後には、実施結果等を踏まえて、今後の当該地域における交通安全活動がより効果的・効率的なものとなるよう、実行委員会としての意見を取りまとめる。

(1) プログラム実施期間

令和6年10月に実施

(2) 実施地区等

①青森県十和田市、山口県において実施

②実施地区は、都道府県または政令指定都市からの提案に基づき、地域ごとの交通事故発生状況、交通安全教育事情等を考慮して選定

(3) 参加者

①青森県十和田市：十和田市民等 500名程度

②山口県：18歳以上県民（高校生は除く） 200名程度

(4) 実施方法

①実施地区ごとに実行委員会を設置し、各地区の実情に即したプログラム内容や参加方法等を検討し、プログラム当日の運営等を行った。

②プログラム実施後は、参加者及び実行委員を対象としたアンケート調査をそれぞれ実施するとともに、本事業を実施した結果を踏まえ、地域における交通安全活動の実施方法・内容等が今後より効果的かつ効率的なものとなるよう意見を取

りまとめた。

③事業実施に際しては、都道府県、実施市町村及び地域において日常的に交通安全活動を行っている交通ボランティア団体を始めとした関係団体や機関（所轄警察署、教育委員会、小・中・高等学校、PTA、高齢者団体及び交通関係団体等）との連携を図り、協力を得て実施した。

3. 実施地区概要

(1) 実施地区・期日・会場等一覧

No.	開催県	実施市町村	実施期日	実施会場
1	青森県	十和田市	10月20日(日)	イオンスーパーセンター十和田
2	山口県	-	10月3日(木)	宇部自動車学校

(2) 実施地区の参加者数一覧

No.	開催県	実施市町村	参加者総数	内 訳
1	青森県	十和田市	978名	十和田市民等
2	山口県	-	170名	山口県民等

II. 実施地区の報告

青森県 十和田市

●事業の概要

1. 事業名

今日も無事でいてほしい
十和田市セーフコミュニティ 交通安全フェスタ 2024

2. 主催

内閣府、十和田市
十和田市セーフコミュニティ交通安全教室実行委員会

3. 事務局

(一財) 日本交通安全教育普及協会

4. 実施会場

イオンスーパーセンター十和田店 (店舗内イベント広場周辺及び駐車場)

5. 実施日時

令和6年10月20日(日) 午前11時00分～午後3時00分

6. 参加者

十和田市民等 978名

7. プログラム内容

◇開会 (主催者挨拶等)

【屋内】

- ・青森県警察音楽隊
- ・パトカー、白バイ展示
- ・子ども安全免許証交付
- ・カプセルトイ (反射材)
- ・セーフコミュニティ各部会による広報啓発

【屋外】

- ・ステアード・ストレイト
- ・シートベルトコンビンサー
- ・青森県警察交通安全ふれあい号
ア 運転用セーフティナビ
イ セーフティドライブチェッカー
ウ 動態認知診断

エ 運転、歩行能力診断

オ モーショントレーニングシステム TANO

◇閉会

8. 実施体制

本事業は、市民協働によるセーフコミュニティ活動の一環として交通安全イベントを開催し、市民の交通安全意識の高揚を図り、安全・安心なまちづくりを目指すため、十和田市が中心となり関係機関と連携・調整の上、プログラムの企画・運営にあたった。

9. 実行委員会等開催経過

①事前打合せ

期日：令和6年8月8日（木）

会場：十和田市役所

協議事項：事業趣旨説明

実施日、会場（ともに案）について

実施内容（案）について

実行委員会の設置について

実施経費について

今後の準備スケジュール等について

②第1回実行委員会

期日：令和6年9月4日（水）

会場：市民交流プラザ トワーレ

協議事項：事業に関する経緯等の説明

事業の名称について

実施日、会場、プログラム（ともに案）について

役割分担（案）について

実行委員会、当日スタッフに対する謝礼等について

今後の準備スケジュール等について 等

③第2回実行委員会（事後）

期日：令和6年12月16日（月）

会場：市民文化センター

協議事項：交通安全フェスタ実施報告

参加者へのアンケート集計結果報告
反省と今後の課題について（意見交換）
実行委員へのアンケート調査

10. 事後実行委員会総括（事務局まとめ）

①実施についての感想

- ・参加者に対するアンケート結果から、「今回の行事に参加してどう感じたか」の設問について、子どもの「とてもよかった」、「よかった」とする回答が 92.1%、一般の「各プログラムの評価」では、全てのプログラムで「とてもよかった」、「よかった」とする回答が 80%以上を占めており、効果的な交通安全フェスタであったものとする。
- ・参加して感じたこと、今の気持ちについては、子ども、一般ともに「交通ルールや交通マナーを守り、十分注意して行動する」、「家族や友人と交通安全について話し合ったり考えたりすることが大切」とするものがともに高い割合を占めており、意識の高揚に寄与できたものとする。

②成果と課題・今後の取り組み

（成果）

- ・参加者について見てみると、「家族と参加」としたものが9割超となっており、会場、開催日の設定がとても効果的だったものと思われる。
- ・「青森県警察音楽隊演奏」、「パトカー、白バイ展示」が「良かった」とする回答が9割超と、普段なかなか経験できない、触れることのできないものをプログラムに組み入れることが参加者の興味を引き、事業成功の鍵となるポイントかもしれない。

（課題・今後の取り組み）

- ・スケアード・ストレイトについて、もう少し多くの人に体験、見学をして欲しいところであった。実施会場が屋内、屋外と別れる場合は、告知の方法と、参加者を円滑に誘導することも大切なポイントになるものと思われる。
- ・交通安全教室の後は、事業の効果評価を行うとともに、反省点等を活かしながら繰り返し交通安全を訴えることが大切である。
- ・セーフコミュニティについて、「知っている」が 18.6%、「聞いたことがある」が 46.2%、「知らない」が 30.3%となった。今後、あらゆる機会を捉えてセーフコミュニティの活動を住民に周知するとともに、地域住民や各種団体、行政が手を携えて安全・安心なまちづくりのために行動することが求められる。

11. 実施の様様



(開会式)



(青森県警察音楽隊)



(青森県警察音楽隊)



(パトカー・白バイ展示)



(子ども安全免許証交付)



(カプセルトイ (反射材))



(スケアード・ストレイト)



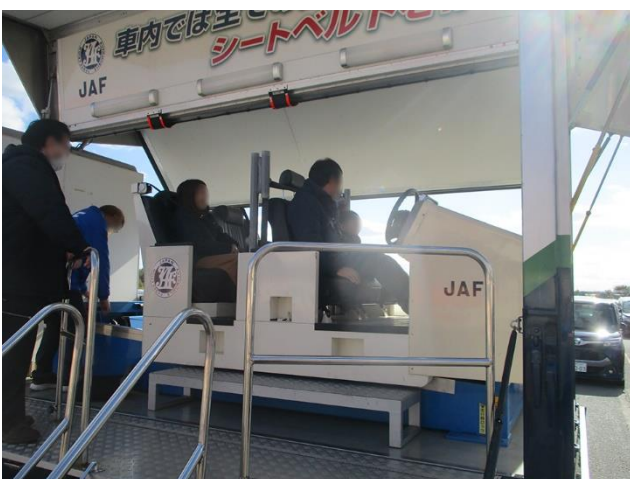
(スケアード・ストレイト)



(スケアード・ストレイト)



(スケアード・ストレイト)



(シートベルトコンビンサー)



(運転・歩行能力診断)

12. 参加者等アンケート集計結果の概要

調査対象：参加者（子ども、一般）、実行委員

1. 子ども（回答者数：127名）

（1）参加者の学年

参加者の学年は、「幼稚園・保育園」が32.3%、「小学生」が56.6%、「中学生」が10.3%であった。（表1）

表1 学年（問1）

幼稚園・保育園	41名	32.3%
小学 1年生	15名	11.8%
小学 2年生	17名	13.4%
小学 3年生	12名	9.4%
小学 4年生	14名	11.0%
小学 5年生	12名	9.4%
小学 6年生	2名	1.6%
中学 1年生	1名	0.8%
中学 2年生	2名	1.6%
中学 3年生	10名	7.9%
無回答	1名	0.8%

（2）今日の行事に参加して

今回の行事に参加して、参加者の59.0%（75名）が「とてもよかった」、次いで33.1%（42名）が「よかった」と回答し、両方で92.1%（117名）を占めた。（表2）

表2 今日の行事に参加して（問2）

とてもよかった	75名	59.0%
よかった	42名	33.1%
ふつう	10名	7.9%
よくなかった	0名	0%
ぜんぜんよくなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

【理由】

とても良かった／良かった

- ・交通ルールを守ろうと思うことができた
- ・交通安全について知らなかったことを学ぶことができた
- ・今まで体験したことのない内容で楽しかった
- ・どうしたら安全に過ごせるか理解できた
- ・周りのみんなに危険なことを教えていきたい

- ・音楽隊の演奏が素晴らしく、感動した
- ・子ども安全免許証をもらえてとても嬉しかった
- ・白バイ、パトカーがとても格好良かった

(3) 参加して感じたこと（複数回答）

行事に参加しての今の気持ちについて、特に「交通ルールや交通マナーを守る」との回答が7割以上、「道路でまわりの車や人に十分注意して行動する」との回答が5割以上を占めた。（表3）

表3 行事に参加して感じたこと（問3）

交通ルールや交通マナーを守ろうという気持ちが強くなった	94名	74.0%
道路でまわりの車や人に十分注意して行動しようという気持ちが強くなった	66名	52.0%
交通安全についてもっと知りたいという気持ちが強くなった	45名	35.4%
交通安全についてだれかと話そうという気持ちが強くなった	39名	30.7%
特に変わりはない	4名	3.1%
無回答	3名	2.4%

【その他感じたこと】

- ・これからも興味ある行事に参加したいと思う

(4) 行事への参加について

これからも、今日のような行事に参加したいか、について、参加者の96.9%（123名）が「参加したい」と回答した。（表4）

表4 今後の参加について（問4）

参加したい		参加したくない		無回答	
123名	96.9%	4名	3.1%	0名	0%

2. 一般（回答者数：145名）

(1) 参加者の属性

① 属性

参加者の性別は、男性が28.3%（41名）、女性が68.9%（100名）となっている。（表5）

表5 参加者の性別内訳（問1-1）

男性	41名	28.3%
女性	100名	68.9%
無回答	4名	2.8%

参加者の年齢別では40代が35.1%（51名）、次いで30代が32.4%（47名）となっている。（表6）

表6 参加者の年齢別内訳（問1-2）

10代	3名	2.1%
20代	4名	2.8%
30代	47名	32.4%
40代	51名	35.1%
50代	16名	11.0%
60代	11名	7.6%
70代	10名	6.9%
80代以上	2名	1.4%
無回答	1名	0.7%
総数	145名	100.0%

② 居住地

参加者の居住地について、市内が52.4%（76名）、市外（県内）が33.8%（49名）であった。（表7）

表7 参加者の居住地内訳（問1-3）

市内	76名	52.4%
市外（県内）	49名	33.8%
市外（県外）	1名	0.7%
無回答	19名	13.1%
総数	145名	100.0%

（2）誰と参加していたか

今日の行事に誰と参加したかについて、「家族と参加」との回答が9割以上を占めた。（表8）

表8 誰と参加したか（問2）

家族と参加	131名	90.3%
友人・知人と参加	8名	5.5%
その他	0名	0%
一人で参加	6名	4.2%
無回答	0名	0%
総数	145名	100.0%

（3）今日の行事に参加したきっかけ（複数回答）

今日の行事に参加したきっかけは、「おもしろそうだった」が48.3%（70名）、「交通安全に興味があった」が22.8%（33名）、「チラシ、ポスター等を見て」が22.0%（32名）との回答が多くを占めた。（表9）

「その他」とするものは、「市民生活に重要であると思った」、「吹奏楽に興味があった」、「市の広報紙を見て」、とするものであった。

表9 参加の動機（理由）（問3：複数回答）

交通安全に興味があった	33名	22.8%
学校やPTA・市町・敬老会等からの案内	5名	3.5%
知人に誘われた	8名	5.5%
家族に勧められた	5名	3.5%
おもしろそうだった	70名	48.3%
チラシ、ポスター等を見て	32名	22.0%
その他	16名	11.0%

（4）今日の行事に参加して

① プログラムの評価

表10 スケアード・ストレイト（問4）

大変良かった	46名	31.7%
良かった	43名	29.7%
ふつう	13名	9.0%
良くなかった	1名	0.7%
全然良くなかった	1名	0.7%
無回答	41名	28.2%

表11 青森県警察音楽隊演奏（問4）

大変良かった	75名	51.7%
良かった	39名	27.0%
ふつう	7名	4.8%
良くなかった	1名	0.7%
全然良くなかった	1名	0.7%
無回答	22名	15.1%

表12 子ども安全免許証交付（問4）

大変良かった	60名	41.3%
良かった	40名	27.6%
ふつう	13名	9.0%
良くなかった	2名	1.4%
全然良くなかった	1名	0.7%
無回答	29名	20.0%

表 13 交通安全ふれあい号体験（問 4）

大変良かった	49 名	33.8%
良かった	40 名	27.6%
ふつう	15 名	10.3%
良くなかった	2 名	1.4%
全然良くなかった	0 名	0%
無回答	39 名	26.9%

表 14 シートベルトコンビンサー（問 4）

大変良かった	51 名	35.2%
良かった	37 名	25.5%
ふつう	17 名	11.7%
良くなかった	2 名	1.4%
全然良くなかった	1 名	0.7%
無回答	37 名	25.5%

表 15 カプセルトイ（反射材）（問 4）

大変良かった	74 名	51.0%
良かった	35 名	24.1%
ふつう	10 名	6.9%
良くなかった	2 名	1.4%
全然良くなかった	0 名	0%
無回答	24 名	16.6%

表 16 パトカー・白バイ展示（問 4）

大変良かった	82 名	56.5%
良かった	37 名	25.5%
ふつう	5 名	3.5%
良くなかった	2 名	1.4%
全然良くなかった	1 名	0.7%
無回答	18 名	12.4%

表 17 セーフコミュニティ啓発活動（問 4）

大変良かった	62 名	42.8%
良かった	40 名	27.6%
ふつう	9 名	6.2%
良くなかった	2 名	1.4%
全然良くなかった	0 名	0%
無回答	32 名	22.0%

(5) 参加しての今の気持ち

行事に参加しての今の気持ちについて、全ての項目で無回答を除くほぼ全員が「気持ちが高まった」と回答した（表 18）。

表 18 各項目についての今の気持ち（問 5）

	はい		いいえ		無回答	
	名	%	名	%	名	%
交通ルールや交通マナーを守って十分注意して行動しようという気持ちが高まったか	137	94.5%	0	0%	8	5.5%
家族や友人と交通安全について日常的に話し合ったり考えたりすることが大切という気持ちが高まったか	137	94.5%	0	0%	8	5.5%

(6) 参加して大切に感じた交通ルール

行事に参加して大切に感じた交通ルールについて、全ての項目で無回答を除くほぼ全員が「気持ちが高まった」と回答した（表 19）。

表 19 各項目についての今の気持ち（問 6）

	はい		いいえ		無回答	
	名	%	名	%	名	%
車の運転中、横断歩道で一時停止をして、歩行者を交通事故から守るという気持ち	136	93.8%	1	0.7%	8	5.5%
自転車に乗る際にはヘルメットをかぶるという気持ち	136	93.8%	0	0%	9	6.2%
夜間、衣類等に反射材をつけて歩くことが大切だという気持ち	137	94.5%	0	0%	8	5.5%

(7) 開催日（曜日を含む）について

開催日について、無回答を除く参加者の全員が「良かった」と回答した。（表 20）

「休日のため子どもを一緒に連れてくることができた」、との意見があった。

表 20 開催日（曜日を含む）について（問 7-1）

良かった		良くなかった		無回答	
135 名	93.1%	0 名	0%	10 名	6.9%

(8) 行事全体の時間の長さについて

行事全体の時間の長さについて、無回答を除く参加者のほぼ全員が「良かった」と回答した。（表 21）

「飽きない程度の丁度良い時間配分であった」、との意見があった。

表 21 行事全体の時間の長さについて（問 7-2）

良かった		長かった		短かった		無回答	
128 名	88.3%	5 名	3.5%	2 名	1.4%	10 名	6.9%

(9) 参加者の数について

参加者の数について、86.2% (125名) が「良かった」と回答した。(表 22)
「あまり待たずに色々体験することができた」、との意見があった。

表 22 参加者の数について (問 7-3)

良かった		多かった		少なかった		無回答	
125名	86.2%	10名	6.9%	0名	0%	10名	6.9%

(10) プログラム (ブース) の数について

プログラムの数について、参加者の 88.3% (128名) が「良かった」と回答した。
(表 23)

「いろいろと楽しみながら体験できた」、「少し体験するので丁度良い」、との意見があった。

表 23 プログラム (ブース) の数について (問 7-4)

良かった		多かった		少なかった		無回答	
128名	88.3%	5名	3.4%	2名	1.4%	10名	6.9%

(11) 各プログラム (ブース) の中での説明の仕方について

各プログラムの中での説明の仕方について、無回答を除くほぼ全員が「良かった」と回答した。(表 24)

「とても分かりやすかった」、との意見があった。

表 24 各プログラム (ブース) の中での説明の仕方について (問 7-5)

良かった		良くなかった		無回答	
134名	92.4%	1名	0.7%	10名	6.9%

(12) 全体の流れ (進行) について

全体の流れ (進行) について、無回答を除くほぼ全員が「良かった」と回答した。
(表 25)

表 25 全体の流れ (進行) について (問 7-6)

良かった		良くなかった		無回答	
134名	92.4%	1名	0.7%	10名	6.9%

(13) セーフコミュニティについて

セーフコミュニティについて、「知っている」が 18.6% (27名)、「聞いたことがある」が 46.2% (67名)、「知らない」が 30.3% (44名) と回答した。(表 26)

表 26 セーフコミュニティについて (問 8)

知っている		聞いたことがある		知らない		無回答	
27名	18.6%	67名	46.2%	44名	30.3%	7名	4.8%

※各表の構成率は、小数点第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合があります。

3. 実行委員（回答者数：13名）

(1) 実行委員の属性

実行委員の所属は、セーフコミュニティ部会、自殺予防部会、保育研究会とするその他が46.2%（6名）、行政が23.1%（3名）、ブース運営団体が7.7%（1名）、婦人会（交通安全母の会）、交通安全協会、警察がそれぞれ7.7%（1名）であった。（表27）

表27 実行委員の所属・種別（問1）

	実行委員
婦人会 (交通安全母の会)	1名
	7.7%
交通安全協会	1名
	7.7%
ブース運営団体	1名
	7.7%
行政	3名
	23.1%
警察	1名
	7.7%
その他	6名
	46.2%

(2) プログラムの評価について

① 自身の地区のプログラムの評価について、実行委員の92.3%（12名）が「大変良かった」、7.7%（1名）が「良かった」と回答した。（表28）

表28 今日の行事は（問2-1）

大変良かった	12名	92.3%
良かった	1名	7.7%
ふつう	0名	0%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

②プログラム評価

表 29 スケアード・ストレイト (問 2-2)

大変良かった	9名	69.2%
良かった	3名	23.1%
ふつう	0名	0%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	1名	7.7%

表 30 ブースによる展示・体験 (問 2-2)

大変良かった	9名	69.2%
良かった	4名	30.8%
ふつう	0名	0%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

③参加者数について

表 31 参加者数について (問 2-3)

想定より多かった	8名	61.5%
想定どおりだった	3名	23.1%
想定より少なかった	2名	15.4%
無回答	0名	0%

【その他】

※子ども免許証等、もっと行列ができると思った

※市内で同日多くのイベントがあり人集めが心配でしたが、ホッしました

※事前広報の効果、開催場所の選定（人が集まる場所）が良かった

(3) 本事業で達成できたと思うことについて (複数回答)

本事業を実施し、参加者に期待したことで、達成できたと思うことについて、実行委員の92.3% (12名) が「交通ルールや交通マナーの大切さを理解してもらおう」、84.6% (11名) が「家庭や地域の中で、交通安全について話し合う大切さを知ってもらおう」と回答した。(表 32)

表 32 達成できたと思うこと (問 3)

交通ルールや交通マナーの大切さを理解してもらおう	12名	92.3%
参加者同士が顔見知りになり、挨拶や声掛け通じて交通事故防止	5名	38.5%
行事がきっかけとなり、地域の交通安全活動への参加意欲が高まる	6名	46.2%
家庭や地域の中で、交通安全について話し合う大切さを知ってもらおう	11名	84.6%
その他	0名	0%

(4) 交通ボランティア活動の実践の場としての、本事業の評価

- ① 本事業に、実行委員として参加いただいたことで、交通安全教育などの知識や技術向上の機会となったかについて、実行委員の 92.3% (12 名) が「大変役立った」、「役立った」と回答した。(表 33)

表 33 知識や技術向上の機会となったか (問 4-1)

大変役立った	9 名	69.2%
役立った	3 名	23.1%
ふつう	0 名	0%
役立たなかった	0 名	0%
全然役立たなかった	0 名	0%
無回答	1 名	7.7%

- ② 本事業に参加いただいたことによって、有益だったことについて (複数回答) 実行委員の 61.5% (8 名) が「交通安全教室実施のための企画立案」、46.2% (6 名) が「交通安全に関する知識の習得」、「行政や警察、他団体との連携」と回答した。(表 34)

表 34 有益だったと思うこと (問 4-2)

交通安全に関する知識の習得について	6 名	46.2%
交通安全教育を行う際の指導方法について	2 名	15.4%
交通安全教室実施のための企画立案について	8 名	61.5%
交通安全教室の運営について	4 名	30.8%
交通安全教室で使用する道具等の制作・調達について	2 名	15.4%
行政や警察、他団体との連携について	6 名	46.2%
その他	0 名	0%
無回答	0 名	0%

- ③ 本事業に参加いただいたことにより、今後の交通安全活動に活用する予定について、84.6% (11 名) が「活用していきたい」と回答した。(表 35)

表 35 今後の活用予定について (問 4-3)

活用していきたい	11 名	84.6%
一部活用していきたい	2 名	15.4%
どちらともいえない	0 名	0%
活用することは難しい	0 名	0%
無回答	0 名	0%

- ④ 本事業への参加を契機として、今後同様（又は類似）の体制で交通安全教室を実施したいと思うか、またそれは現実的に可能かについて、実行委員の 92.3%（12 名）が「実施したいし、可能だと思う」、と回答した。（表 36）

表 36 継続実施に向けての意欲と可否（問 4-4）

実施したいし、可能だと思う	12 名	92.3%
実施したいが、困難だと思う	0 名	0%
実施したいと思わない	0 名	0%
どちらともいえない	1 名	7.7%
無回答	0 名	0%

- (5) 本事業以外で、交通ボランティア活動に必要な知識や技術などを向上させるためにはどのような機会が必要だと思うか。（自由記述）

- ・会場を官庁街通りとしても良いのでは
- ・セーフコミュニティや県警などと連携した協力体制
- ・学校、町内会での周知とボランティアの参加
- ・他のフェスティバル（カーフェスティバル、祭り等）とのコラボも良いのでは
- ・関係する機関、団体が一つの目的のもと共助すること

- (6) 今回、本事業に取り組んだことで、あなた自身に意識の変化や再認識したことがあったか。（自由記述）

- ・実際にスケアード・ストレイトを見て安全運転を強く意識した
- ・交通ルールを伝えることの大切さを感じた
- ・イベントへの参加、運営側としての楽しさを体験できて良かった
- ・交通安全を伝える方法と楽しませ方
- ・大きなイベントもできるという実感、今後実施するハードルが下がる良い機会となった
- ・セーフコミュニティ全体で取り組むことが初めてで良かったと思う

- (7) 本事業に対する意見や提言について。（自由記述）

- ・イオンだけでなく別の場所での実施も必要（参加者層が違う）
- ・良いフェスタでした、親子連れの参加も多く交通安全の啓発につながると感じた
- ・とても盛り上がりたくさんの市民に PR できて良かったと思う
- ・参加者にとにかく体験してもらうこと、場面の提供が重要と感じた
- ・予算的に次年度も実施できる方法での開催をぜひ継続して欲しい

※各表の構成率は、小数点第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合があります。

山口県

●事業の概要

1. 事業名

シャンと乗っちゃリ！交通安全自転車教室

2. 主催

内閣府

「シャンと乗っちゃリ！交通安全自転車教室」実行委員会

3. 事務局

(一財) 日本交通安全教育普及協会

4. 実施会場

宇部自動車学校

5. 実施日時

令和6年10月3日(木) 午前10時00分～午後3時00分

6. 参加者

山口県民(主に高齢者)、県内の交通ボランティア等 170名

7. プログラム内容

- ・開会(主催者挨拶等)
- ・自転車条例の概要説明
- ・山口県警察音楽隊コンサート
- ・由宇亭拓の輔 交通安全落語
- ・参加・体験型交通安全教室
 - ア ヘルメットの落下実験
 - イ バーチャルサイクリング
 - ウ 自転車シミュレーター
 - エ 反射材視認性実験
 - オ 自転車保険情報コーナー
 - カ シートベルトコンビンサー
- ・スケアード・ストレイト
- ・閉会

8. 実施体制

本事業は、地域の交通事故発生状況、交通課題等を考慮した内容とするため、山

口県、宇部市のほか、交通安全教育や交通安全活動等に携わっている関係団体等が中心となってプログラムの企画・運営にあたった。

9. 実行委員会等開催経過

①事前打合せ

期日：令和6年7月31日（水）

会場：山口県庁

協議事項：趣旨説明

実施日の検討及び実施会場の確認
実施プログラム（案）の検討
参加予定者の検討
実行委員会設置に関する検討
実施準備に関する確認

②第1回実行委員会

期日：令和6年9月6日（金）

会場：宇部自動車学校他

協議事項：実施日、実施会場の決定

イベント名称の検討
実施概要の確認
実施プログラムの検討
参加予定者の検討
配布啓発品の検討
役割分担の検討
参加者アンケート調査票の検討

③第2回実行委員会（事後）

期日：令和6年12月13日（金）

会場：山口県庁

協議事項：参加者アンケート集計結果

反省と今後の課題について（意見交換）
実行委員へのアンケート調査

10. 事後実行委員会総括（事務局まとめ）

①実施についての感想

- ・様々なブースを設置したことにより、参加者が楽しみながら参加していた
- ・体験型の交通安全教室はとても効果的
- ・スケアード・ストレイトは交通事故の恐ろしさを再認識することができた
- ・実行委員に教育関係者や学生ボランティアを交えるとより良い事業となる

②成果と課題・今後の取り組み

- ・参加者を集めるのに苦勞した、何よりも関係機関・団体の連携、協力が重要
- ・交通安全教室は一回のみの実施でなく、継続して行うことが大切
- ・屋内プログラムの人数に偏りがないように案内できるとより効果的
- ・この規模のイベント実施には財源の確保が課題
- ・多くの人に体験してもらえよう、商業施設等での実施も効果的では

11. 実施の様様



(開会式)



(山口県警察音楽隊演奏)



(交通安全落語)



(ヘルメットの落下実験)



(バーチャルサイクリング)



(自転車シミュレーター)



(反射材視認性実験)



(自転車保険情報コーナー)



(シートベルトコンビナー)



(スケアード・ストレイト)



(スケアード・ストレイト)



(スケアード・ストレイト)

12. 参加者等アンケート集計結果の概要

調査対象：参加者（高校生以上）、実行委員

1. 高校生以上（回答者数：127名）

(1) 参加者の属性

① 属性

参加者の男女別では男性が60.6%（77名）、女性が29.1%（37名）となっている。

（表1）

表1 参加者の男女別内訳（問1-1）

男性	77名	60.6%
女性	37名	29.1%
無回答	13名	10.2%

参加者の年齢別で70代が53.5%（68名）と半数以上を占め、次いで80歳以上が19.7%（25名）となっている。（表2）

表2 参加者の年齢別内訳（問1-1）

10代	0名	0%
20代	1名	0.8%
30代	3名	2.4%
40代	3名	2.4%
50代	11名	8.7%
60代	14名	11.0%
70代	68名	53.5%
80歳以上	25名	19.7%
無回答	2名	1.6%

(2) 今日の行事に参加したきっかけ（複数回答）

今日の行事に参加したきっかけは、「市町等・敬老会からの案内」が 44.1%（56 名）、「交通安全に興味があった」が 35.4%（45 名）、との回答が多くを占めた。（表 3）

なお、「その他」とあるのは「交通安全協会からの案内」、「交通指導員として従事」とするものであった。（表 3）

表 3 参加の動機（理由）（問 2：複数回答）

交通安全に興味があった	45 名	35.4%
市町等・敬老会からの案内	56 名	44.1%
知人に誘われた	15 名	11.8%
家族に勧められた	2 名	1.6%
おもしろそうだった	2 名	1.6%
その他	21 名	16.5%
無回答	2 名	1.6%

(3) 今日の行事に参加して

① 感想

今回の行事に参加して、参加者の 62.2%（79 名）が「大変良かった」、次いで 33.1%（42 名）が「良かった」と回答し、両者で 95.3%（121 名）を占めた。（表 4）

表 4 今日の行事に参加して（問 3-1）

大変良かった	79 名	62.2%
良かった	42 名	33.1%
ふつう	1 名	0.8%
良くなかった	0 名	0%
全然良くなかった	0 名	0%
無回答	5 名	3.9%

【理由】

大変良かった／良かった

- ・体験したことのない内容を学ぶことができた
- ・交通安全には平素から気をつけている
- ・県警音楽隊、交通安全落語、楽しみながら交通安全を学ぶことができた
- ・とても良い内容なので、県内他の地区、学校でも実施すると良い

ふつう

- ・屋内プログラムの人数に、偏りがないように案内されるともっと良い

② プログラムの評価

表5 スケアード・ストレイト (問3-2)

大変良かった	63名	49.6%
良かった	42名	33.1%
ふつう	3名	2.4%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	19名	15.0%

表6 山口県警察音楽隊コンサート (問3-2)

大変良かった	103名	81.1%
良かった	19名	15.0%
ふつう	1名	0.8%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	4名	3.1%

表7 交通安全落語 (問3-2)

大変良かった	90名	70.9%
良かった	31名	24.4%
ふつう	3名	2.4%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	3名	2.4%

表8 参加・体験型交通安全教室 (問3-2)

大変良かった	68名	53.5%
良かった	39名	30.7%
ふつう	6名	4.7%
良くなかった	1名	0.8%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	13名	10.2%

表9 特に興味を持ったブース (問3-2:複数回答)

自転車シミュレーター	48名	37.8%
反射材視認性実験	28名	22.0%
自転車保険情報ブース	22名	17.3%
シートベルトコンビンサー	71名	55.9%
ヘルメット落下実験	57名	44.9%
バーチャルサイクリング	28名	22.0%
無回答	22名	17.3%

(4) 参加しての今の気持ち

行事に参加しての今の気持ちについて、全ての項目で無回答を除くほぼ全員が「気持ちが高まった」と回答した。(表 10)

表 10 各項目についての今の気持ち (問 4)

	はい		いいえ		無回答	
	名	%	名	%	名	%
交通ルールや交通マナーを守らなければいけないという気持ちが高まったか	122	96.1%	0	0%	5	3.9%
道路状況や交通状況などに十分注意して行動しようという気持ちが高まったか	122	96.1%	0	0%	5	3.9%
家族で、交通安全について日常的に話し合ったり考えたりすることが大切という気持ちが高まったか	121	95.3%	1	0.8%	5	3.9%
友人や仲間と、交通安全について話し合おうという気持ちが高まったか	119	93.7%	3	2.4%	5	3.9%
地域の子どもたちや地域の皆さんを、交通事故から守ろうという気持ちが高まったか	122	96.1%	0	0%	5	3.9%
交通安全のために、あなた自らが地域で何か役割を果たそうという気持ちが高まったか	121	95.3%	1	0.8%	5	3.9%
これからも機会があれば交通安全教室に参加しようという気持ちが高まったか	122	96.1%	0	0%	5	3.9%

(5) 開催日 (曜日を含む) について

開催日について、無回答を除く参加者のほぼ全員が「良かった」と回答した。(表 11) できれば平日の開催を希望との意見も見られた。

表 11 開催日 (曜日を含む) について (問 5-1)

良かった		良くなかった		無回答	
121 名	95.3%	1 名	0.8%	5 名	3.9%

(6) 行事全体の時間の長さについて

行事全体の時間の長さについて、無回答を除く参加者のほぼ全員が「良かった」と回答した。(表 12)

「飽きずに効果的な体験が多数できた」、とする一方、高齢になると疲れが出るので、「半日で良い」とする意見も見られた。

表 12 行事全体の時間の長さについて (問 5-2)

良かった		長かった		短かった		無回答	
102 名	80.3%	20 名	15.7%	0 名	0%	5 名	3.9%

(7) 参加者の数について

参加者の数について、76.4% (97名) が「良かった」と回答した一方、全員が体験できないことから、「多かった」とする回答も 18.9% (24名) 見られた。(表 13)

表 13 行事の周知方法について (問 5-3)

良かった		多かった		少なかった		無回答	
97名	76.4%	24名	18.9%	1名	0.8%	5名	3.9%

(8) プログラム (ブース) の数について

プログラムの数について、参加者の 91.3% (116名) が「良かった」と回答した。(表 14)

表 14 プログラム (ブース) の数について (問 5-4)

良かった		多かった		少なかった		無回答	
116名	91.3%	6名	4.7%	0名	0%	5名	3.9%

(9) 各プログラム (ブース) の中での説明の仕方について

各プログラムの中での説明の仕方について、無回答を除くほぼ全員が「良かった」と回答した。(表 15)

表 15 各プログラム (ブース) の中での説明の仕方について (問 5-5)

良かった		良くなかった		無回答	
120名	94.5%	2名	1.6%	5名	3.9%

(10) 全体の流れ (進行) について

全体の流れ (進行) について、無回答を除く全員が「良かった」と回答した。(表 16)

表 16 全体の流れ (進行) について (問 5-6)

良かった		良くなかった		無回答	
117名	92.1%	5名	3.9%	5名	3.9%

※各表の構成率は、小数点第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合があります。

2. 実行委員（回答者数：11名）

（1）実行委員の属性

実行委員の所属は、行政が 45.5%（5名）、警察が 27.3%（3名）、交通安全協会が 18.2%（2名）、ブース運営団体が 9.1%（1名）であった。（表 17）

表 17 実行委員の所属・種別（問 1）

	実行委員
婦人会 (交通安全母の会)	0名
	0%
交通安全協会	2名
	18.2%
ブース運営団体	1名
	9.1%
行政	5名
	45.5%
警察	3名
	27.3%
その他（交通指導員）	0名
	0%

（2）プログラムの評価について

① 自身の地区のプログラムの評価について、実行委員の 90.9%（10名）が「大変良かった」、9.1%（1名）が「良かった」と回答した。（表 18）

その理由として、体験型の交通安全教室であったこと、特にスケアード・ストレイトは、参加者全員が交通事故の恐ろしさを実感できた、とするものであった。

表 18 今日の行事は（問 2-1）

大変良かった	10名	90.9%
良かった	1名	9.1%
ふつう	0名	0%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

②プログラム評価

表 19 スケアード・ストレイト（問 2-2）

大変良かった	10名	90.9%
良かった	1名	9.1%
ふつう	0名	0%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

表 20 ブースによる展示・体験（問 2-2）

大変良かった	8名	72.7%
良かった	3名	27.3%
ふつう	0名	0%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

③参加者数について

表 21 今日の行事は（問 2-3）

想定より多かった	2名	18.2%
想定どおりだった	7名	63.6%
想定より少なかった	2名	18.2%
無回答	0名	0%

（3）本事業で達成できたと思うことについて（複数回答）

本事業を実施し、参加者に期待したことで、達成できたと思うことについて、実行委員の90.9%（10名）が「交通ルールや交通マナーの大切さを理解してもらおう」、54.5%（6名）が「行事がきっかけとなり、地域の交通安全活動への参加意欲が高まる」、「家庭や地域の中で、交通安全について話し合う大切さを知ってもらおう」と回答した。（表 22）

表 22 達成できたと思うこと（問 3）

交通ルールや交通マナーの大切さを理解してもらおう	10名	90.9%
参加者同士が顔見知りになり、挨拶や声掛け通じて交通事故防止	3名	27.3%
行事がきっかけとなり、地域の交通安全活動への参加意欲が高まる	6名	54.5%
家庭や地域の中で、交通安全について話し合う大切さを知ってもらおう	6名	54.5%
その他	1名	9.1%

(4) 交通ボランティア活動の実践の場としての、本事業の評価

- ① 本事業に、実行委員として参加したことで、交通安全教育などの知識や技術向上の機会となったかについて、実行委員の 81.8%（9名）が「大変役立った」と回答した。（表 23）

表 23 知識や技術向上の機会となったか（問 4-1）

大変役立った	9名	81.8%
役立った	2名	18.2%
ふつう	0名	0%
役立たなかった	0名	0%
全然役立たなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

- ② 本事業に参加したことで、有益だったことについて（複数回答）

実行委員の 63.6%（7名）が「交通安全教育を行う際の指導方法」、「行政や警察、他団体との連携」、45.5%（5名）が「交通安全に関する知識の習得」と回答した。（表 24）

表 24 有益だったと思うこと（問 4-2）

交通安全に関する知識の習得について	5名	45.5%
交通安全教育を行う際の指導方法について	7名	63.6%
交通安全教室実施のための企画立案について	4名	36.4%
交通安全教室の運営について	2名	18.2%
交通安全教室で使用する道具等の制作・調達について	3名	27.3%
行政や警察、他団体との連携について	7名	63.6%
その他	0名	0%
無回答	0名	0%

- ③ 本事業に参加したことで、今後の交通安全活動に活用する予定について、81.8%（9名）が「活用していきたい」と回答した。（表 25）

表 25 今後の活用予定について（問 4-3）

活用していきたい	9名	81.8%
一部活用していきたい	2名	18.2%
どちらともいえない	0名	0%
活用することは難しい	0名	0%
無回答	0名	0%

④ 本事業への参加を契機として、今後同様（又は類似）の体制で交通安全教室を実施したいと思うか、またそれは現実的に可能かについて、実行委員の 54.5%（6名）が「実施したいし、可能だと思う」、と回答した。（表 26）

「実施したいが、困難だと思う」との回答は、「予算の確保が難しい」、とするものであった。

表 26 継続実施に向けての意欲と可否（問 4-4）

実施したいし、可能だと思う	6名	54.5%
実施したいが、困難だと思う	2名	18.2%
実施したいと思わない	0名	0%
どちらともいえない	3名	27.3%
無回答	0名	0%

(5) 本事業以外で、交通ボランティア活動に必要な知識や技術などを向上させるためにはどのような機会が必要だと思うか。（自由記述）

- ・子ども（小学生・中学生・高校生）を巻き込んだ交通安全活動の推進
- ・交通事故の恐怖を体感できるような取り組み
- ・警察署、関係機関との情報共有と積極的な支援
- ・全世代対象の参加・体験型交通安全イベントの実施
- ・地域の住民が集まるイベント会場での交通安全広報の機会
- ・ボランティア以外の人も気軽に参加可能な場所での実施
- ・関係機関が声を掛け合って、様々な機会を利用することが必要
- ・今回のスケアード・ストレイトのように日頃経験できない体験型の交通安全教室
- ・専門家による講習会等の実施

(6) 今回、本事業に取り組んだことで、あなた自身に意識の変化や再認識したことがあったか。（自由記述）

- ・高校生、大学生、学校関係者への交通安全の啓発が難しいと感じた
- ・実行委員に教育関係者や学生ボランティアを交えて検討を進めてもよかった
- ・歩行者、自転車、運転者のコミュニケーションが大切
- ・行政や他団体との連携が重要であること
- ・連携と協力の大切さ、交通事故を起さないという意識を持つこと
- ・他のボランティアの方と連携できたので、横のつながりが重要と再認識した
- ・交通事故の恐ろしさを再認識した
- ・スタントマンの交通事故再現に、交通事故の恐ろしさを再認識した
- ・今後の交通安全講習において活用し、参加したい
- ・自転車保険の加入率向上は、行政担当者や一般の方への地道な情報提供が必要と再認識した
- ・様々な体験ができて勉強させていただいたが、参加者を集めるのは大変であった

(7) 本事業に対する意見や提言について。(自由記述)

- ・素晴らしい交通安全教室でした
- ・継続して実施して欲しい
- ・より多くの人に見てもらえるよう、スーパー等で実施して欲しい
- ・若干時間を要した昼食配布について、組織毎に配布した方がスムーズに行える

※各表の構成率は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。